

令和5年度 全国高校サッカー選手権茨城県予選会							準決勝	明秀日立	対	古河第一	
令和	5	年	11	月	4	日	戦評担当	所属	竹園高等学校	氏名	飯田 慎一郎
<p>お互いに1-3-4-2-1システムでキックオフする。序盤からセットプレーを中心にお互いのゴールに迫るスリリングな展開が続く。戦況を見て明秀日立はシステムを1-4-2-3-1に変更し、ボールポゼッションを高める。GK・CB・VOでダイヤモンドを形成し、全体が流動的にポジションチェンジしながら前進していくが決定打にはいたらない。対する古河一もDFラインを5枚揃えた中でチャレンジ&カバーを繰り返し、前向きにボールを奪った際には⑨川田のスピードを活かしたカウンターを繰り出し、迎えた前半30分、コーナーキックのこぼれ球を⑩五島が押し込み古河第一が先制点を奪う。その後も、明秀日立がボールを握る展開が続くが、古河第一リードで前半を折り返す。</p> <p>迎えた後半も一進一退の展開が続く。後半15分過ぎから、明秀日立は選手交代で突破口を見出す。交代で入ったフレッシュな⑨齊藤が左サイドで果敢な突破を見せるなど、徐々にゴールに迫るシーンが増えていく。迎えた後半27分、中盤でインターセプトした③飯田がゴール右上にミドルシュートを決めて試合を振り出しに戻す。さらに後半33分には23番竹花が左サイドを突破し、追加点をあげて逆転に成功する。逆転を許した古河第一は、長身FW⑩長塚にボールを集め反撃を試みるが、DF⑤山本を中心に最後までゴールを割らせなかった明秀日立が決勝に駒を進めた。</p> <p>試合を通して、インテンシティの高さや戦術的な駆け引きが多くみられる好ゲームとなった。敗れた古河第一は、ローブロックからのカウンターや気迫のこもったプレーなど、県立高校として意地や泥臭さを存分に見せてくれた。勝利した明秀日立も、インターハイ日本一のチームらしい落ち着いたゲーム運びをみせてくれた。好ゲームを演じた両チームに敬意を表したい。</p>											

令和5年度 全国高校サッカー選手権茨城県予選会							準決勝	鹿島学園	対	霞ヶ浦	
令和	5	年	11	月	4	日	戦評担当	所属	那珂高等学校	氏名	関山 和樹
<p>天候・ピッチともに最高のコンディションの中、鹿島学園は1-4-4-2、霞ヶ浦は1-4-4-2でスタート。鹿島学園は開始早々、DFライン背後へのスルーパスに⑩山本が素早く反応し、幸先よく先制。対する霞ヶ浦は中盤でのボール奪取やロングスローからゴール前のチャンスを作り出し、流れを引き寄せようとする。時間の経過とともに、相手のビルドアップに対し、前線からボールを奪いに行く拮抗した展開が続く。その後、霞ヶ浦は、勢いのある守備から⑩大谷の突破や⑨吉沢のポストプレーからシュートチャンスを作り出す。33分霞ヶ浦がコーナーキックのこぼれ球から⑩安部が同点弾を決める。39分鹿島学園は、ゴールキックからデザインされたビルドアップで相手前線を引き込み、空いたサイドのスペースへ配球とランニングを繰り返しチャンスを窺うと、左サイドからのクロスが右サイドから駆け上がった⑨根本が押し込み霞ヶ浦を突き放す。</p> <p>迎えた後半も一進一退の展開が続く中、霞ヶ浦は素早い攻撃から守備への切り替えで、ボールを奪い取り鹿島学園陣内に押し込む。対する鹿島学園は、ゴール前で粘り強く対応し得点を許さない。流れを変えたい鹿島学園は、前線の選手を3枚入れ替え、攻守を活性化試みるが追加点が奪えない。その後も、両チームの気迫のこもった守備で、ペナルティエリアまで侵入できない拮抗した状態が続く。後半36分霞ヶ浦⑤須崎の対角へのロングキックから、途中交代で入った左サイド④藤原が、PA左サイドからカットインし、バイタルエリアから、グラウンダーのシュートを放つと、ボールは逆サイドネットへと吸い込まれ、値千金の同点弾。その後、80分では決着がつかず、試合は延長戦に突入。延長前半、後半時の勢いそのままに、霞ヶ浦が押し込みゴールに迫るも得点には至らない。延長後半には、鹿島学園も途中出場の⑩森を中心にパワフルな攻撃から決定機を迎えるが、決めきることができず、スコアレスのまま勝負はPK戦へ。</p> <p>PK戦は8人目まで突入し、8-7で霞ヶ浦が勝利し、初の決勝進出を果たした。敗れた鹿島学園も最後まで多彩な攻撃で勝利を追求した好ゲームであった。</p>											

令和5年度 全国高校サッカー選手権茨城県予選会							決勝	明秀日立	対	霞ヶ浦	
令和	5	年	11	月	12	日	戦評担当	所属	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校	氏名	岩間 淳平
<p>雨上がりのスリッピーなピッチコンディションの中、霞ヶ浦は1-4-4-2、明秀日立は1-3-4-3のフォーメーションでスタート。序盤から球際での攻防が激しく主導権争いが続く。攻防を制し少しずつ攻撃を組み立てたのは明秀日立。中盤で守備ブロックを形成する霞ヶ浦に対し、DFラインでボールを動かし、サイドを起点にした攻撃を見せる。ロングボールからのサイド攻撃や、中盤でのパスワークからSMF⑧のスピードを活かした攻撃など多彩なパターンで攻撃を試みる。いずれの攻撃も明秀日立FWの3人が、効果的に立ち位置を変えながら連動することで、霞ヶ浦の守備ブロックにスペースを作り出すことが起点となる。対する霞ヶ浦も、押し込まれる時間帯ではゴール前で体を張った守備で簡単にはゴールを割れない。攻撃時にはMF⑦を中心に丁寧にボールを動かすスタイルを崩さず、MF⑩のクロスからFW⑨がヘディングでゴールに迫るなど、限られた攻撃回数の中でも得点の雰囲気を感じさせる。スコアレスのまま迎えた後半開始早々、先制点を挙げたのは明秀日立。左サイド⑨の積極的な仕掛けで得たコーナーキックから得点を奪う。そこから一気にギアを上げ追加点を狙う明秀日立は、前半同様球際での攻防において相手を上回るプレーを見せ、そこから縦に速い攻撃でゴールを目指す。縦に速い攻撃でも、⑨②⑩⑧など複数が絡む迫力ある攻撃から追加点を重ねる。さらにメンバー交代でフレッシュな攻撃の選手を投入し、徐々に個の力で局面を打開する場面が増えると、連続得点をあげ試合を優位に進める。追い込まれた霞ヶ浦は、メンバーを変えて反撃を試みるも、集中を切らさない明秀日立DFを突破できずに試合終了となった。敗れはしたものの、ハードワークを厭わない守備と最後までボールを意図的に動かす姿勢を失わなかった霞ヶ浦は賞賛に値する試合内容となった。勝利した明秀日立は、球際での攻防や落ち着いたゲーム運び、さらにカウンター攻撃を含めチャンスを仕留めに行く迫力は見事であった。万全の準備のもと、全国大会での活躍を期待したい。</p>											